

## 眼科 TAG 進捗状況報告

眼科 TAG Co-Chair

柏井 聡

[国際眼科会議(ICO) ICD-11 作業部会長]

## 1. 2012年に行った会議および決定事項

## (1) 第11回眼科対面会議:2012年11月12日12:30-14:30 (@AAO\*1)

米国ミネソタ州シカゴ市McCormick Place

- iCAT Platform上の眼科の章(第7章Diseases of the eye and adnexa)は、眼科TAGが当初ICD-11に提案した眼科の構造とは全く異なっているとの懸念をSkypeにて会議に参加しているWHOのDr. Robert Jakob、Ms.Sara Cottlerへ示し、理由を問いただした。
- WHOのMs. Sara Cottler がSkype画面上でiCAT Platformを具体的に概観しながら、Foundation LayerとLiniarizationとが相互排他的であることが関係している旨の説明があったが、問題の解明には至らず、最終的にMs. Cottlerが、構造上の問題点について具体的に文書で提示されれば変更する旨の表明があった。
- 眼科は、構造についての作業に終始しているのが現状で、定義については、遙かに遅れを取っている旨の現状分析がMs. Sara Cottlerより示された。
- 眼科TAGとして2012年12月中に少なくとも80%の用語は短い定義(100Words程度)を付けること、また、作業の進捗状況を示す赤・青・貴色コードを付することが最大の重要課題と決まる。

## (2) (付記) 2013年2月7日東京で行われた第5回内科TAG対面会議で来日中のWHOのBedirhan Üstün氏に現行のiCAT Platformの第7章眼科に、眼科TAGが提案したHA~HBの眼科の構造の重要な用語(clinical entities)の多くが、iCAT Platformの入力が遮断される直前に、”Needing a decision to be made”および”To be retired – Diseases of the eye and adnexa”欄へ移動されたため、現在の第7章の眼科の構造は虫食い状態となり、また、第7章内に他のTAGが”Structural developmental anomalies of the eye, eyelid and lacrimal apparatus” という新たな大項目をBとして設け、独自に中分類、小分類と展開したため、第7章全体として大変混乱した状態にある旨、具体的にiCAT Platformを提示し説明した。Üstün氏は第7章の深刻な混乱を認識し、第7章の復元を支援する旨の表明があった。これに呼応して、2013年3月中に各Working Groupが担当分野の構造の問題点の洗い出しを行うことを決定し現在その洗い出し作業中で、本来の構造の再現をWHOの協力の下に行う予定である。

## 2. 今後の会議およびイベントの予定

## (1) 第12回眼科対面会議:2013年5月6日(@ARVO\*2)

米国ワシントン州シアトル市Washington State Convention Center

(2) 第34回国際眼科学会(World Ophthalmology Congress,WOC):2014年4月2日～6日

東京国際フォーラム

ICO ICD-11作業部会主催シンポジウム”ICD-11: Gateway to the Future

Ophthalmic Practice”をWHOからBedirhan Üstün氏、厚生労働省から国際分類情報管理室長 谷伸悦氏を招いて眼科のICD-11についてのシンポジウムを行う  
予定

(3) 第13回眼科対面会議:2014年10月18日～21日 (@AAO\*<sup>3</sup>)

米国ミネソタ州シカゴ市McCormick Place

(略語)

\*1. AAO: American Academy of Ophthalmology (米国眼科アカデミー)

\*2. ARVO: Association for Research in Vision and Ophthalmology (視覚と眼科学における研究集会)